

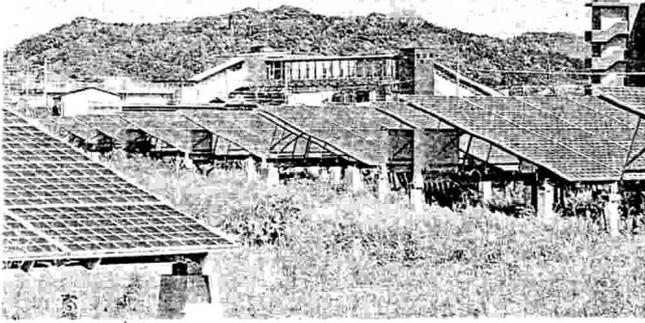
(第3種郵便物認可)

西 日

# 桂川町の活性化どう描く

## 町長選 18日告示

桂川駅（中央奥）の南口付近にはソーラーパネルが設置されている



### 駅南側 区画整理足踏み

#### ■26区画が完売

博多まで特急なら約30分

福岡都市圏に近い桂川町はベッドタウン化を目指すものの、人口減少に歯止めがかからない。18年前、「大きな自治体の過疎地域にはなりたくない」と飯塚市などの合併協議会から離脱。単独路線を選んだ結果、嘉穂郡で唯一の自治体となった。財政規模が小さく、大がかりな区画整理も容易ではない町の活性化をどう描くのか。18日に告示される町長選を前に考えた。

（大橋昂平）

で結ぶJR桂川駅は「筑豊 駅舎を改修し、構内に自由の玄関口」とされる。昨年 通路を設けて北口とつないら歩いて5分ほどの場所に新築の住宅が並び、平日午後には下校の子どものたちの声が聞こえる。

#### ■パネル続々と

3年前、不動産大手が住宅団地として開発し、売り出したところ、全26区画が完売した。入居者の多くが福岡都市圏に通勤・通学する子育て世帯といい、ベツミ。「次善の策」（町関係者）として持ち上がったのを物語る。

もともと駅には出入り口が北側しかなかった。朝夕は周辺の道路が送迎などの車両で渋滞する一方、南側は閑散として空き地が広がっていた。

そこで、町は「渋滞緩和」などを目指して南口の整備に乗り出した。JR九州と

ためか、空き地にはソーラーパネルが続々と置かれた。住宅開発は地元資本による一部エリアにとどまり、域外の大手資本を呼び込むまでには至っていない。

町によると、住宅地として利用できる土地は、用途変更が可能な農地も含め8・7畝に及び、ベイビードーム（福岡市）の敷地面積を上回る。商業施設もほとんどなく、60代の住民男性は「駅前ののにコンビニもない」ともらす。

#### ■秘めた可能性

町の人口は4月時点で約1万3千人。嘉穂郡で単独の自治体となった2006年以降、約1700人減った。転入を転出が上回る「社会減」が主因で、町は総合戦略に「改善への施策展開が必要」と掲げる。

一方、八木山峠を越えた篠栗町の人口は06年以降、120人増えた。JR篠栗駅から博多まで所要時間は普通列車でも約15分。町職員は「福岡市への通勤に便利で居住地として人気が高い」と自信を持つ。特に駅

#### ■浮揚への近道

堅実な財政運営で、町は財源の余裕度を示す「財政力指数」が20年度は0・42と、06年度の0・37から回復。借金となる地方債残高も約16億円以上減らした。ただ、財政規模は小さく、本年度一般会計当初予算は約62億円と隣の飯塚市の8%未満。町職員は「大きな事業を続ける財政力がな

い」と打ち明ける。実際、町内で住宅を購入した世帯



桂川町の合併協議 桂川町は2004年、飯塚市と山田市（現嘉麻市）、嘉穂郡全町でつくる「嘉麻山2市8町合併協議会」から離脱した。06年、桂川町を除く嘉穂郡7町のうち4町（徳波、筑穂、庄内、頼田）は飯塚市と合併し、3町（稲築、碓井、嘉穂）は山田市と合併して嘉麻市が発足。郡には桂川町だけが残った。